

# 可児高通信

平成26年  
3月号

## 可児高校生 可児市議会に意見提出

二月一〇日(火)に、地域課題解決キャリア教育として本校が進めてきた「縁リッチプロジェクト」のメンバーが、可児市議会議場で市長さんや市議会議員さんの前で、一年間の活動報告や意見書を提出し、受理されました。

可児高校臨時会」と銘打たれた会議は、本当の市議会さながらに、川上議長さんが司会進行され、議員席に座った二四人の生徒たちも緊張して活動報告をしました。地域医療の他職種間交流や防災ク



スロードによる大人との話し合い、東京・富士研修での文部科学省や教育関連企業等の方との教育に関する議論や団地問題についての地域の方との交流、キッズクラブへの訪問などを報告しました。最後に、高校生が地域の様々なイベントや活動に企画の段階から参加できるようにして

欲しい」と語り、意見書を提出しました。その後、子育て支援策をテーマに生徒と市議員、福祉関係者との話し合いがグループごとに行われ、その成果を発表しました。高校生ならではのユニークな意見もあり、場を和ませていました。川上議長さんは、高校生が大人と関われる場を更に広げたい」と話してくださいました。この様子は、ケーブルテレビのフラッシュニュースでも放映されました。

可児高校は、来年度も地域課題解決学習を通して、地域との連携を強め、将来地域に貢献する社会人を育てていきたいと考えています。

## 中国文化に親しむ

## 芸術鑑賞会



二月一九日(木)に、可児市文化創造センターで芸術鑑賞がありました。今年はチャイナ企画による「中国雑伎〜アクロバティック三国志〜」で、中国の伝統芸能・文化に触れ、その理解を深めることができました。民俗芸能の獅子舞では、二匹の獅子がダイナミックに舞い、客席を練り歩きながら生徒の頭を大きな口で咬んで幸せを運びました。京劇の「三国志」や「西遊記」の感情豊かな舞いや、二胡や中国琵琶の美しい音色による中国の曲や可児高校の校歌の演奏を楽しみました。また、中国雑伎では、「燕の輪くぐり」や

## 花フェスタを駆け抜ける

## 強歩大会



可児高校恒例の強歩大会が、二月七日(土)に花フェスタ記念公園で行われました。昨年は大雪で中止になりましたので、一・二年生とも初めての強歩大会になりました。当日はお天気もよく、半袖



ハーフパンツで元気よくスタートしました。男子は一五km、女子は一〇kmのコースです。生徒達は、体育の持久走の集大成とあって、それぞれのペース

で一生懸命走り、全ての生徒が完走しました。辛いことにも必死に耐えて乗り越える可児高魂を見た気がしました。PTAの役員の方の給水や保護者の方の応援にも力づけられました。どうもありがとうございました

## さよなら、可児高校 卒業式



三月一日(日)、第三三回卒業証書授与式が行われ、三三期生三〇八名が、巣立っていきました。当日は、県会議員や可児市長、中学校の先生、同窓会会長、PTA役員の方々もお祝いに来てくださり、祝電も多数いただきました。式は厳粛な雰囲気のうちに進行了、卒業生の力のこもったとした

はい」という声が体育館に響きました。国歌、校歌、仰げば尊し、蛍の光も大きな声でしみじみと歌われました。送辞・答辞も生徒の素直な気持ち伝わり、全てが感動的で素晴らしい卒業式でした。



しかし、卒業式後も、国公立前期試験の発表、中後期試験の受験とまだまだまだ試験は続き、制服姿で登校してくる生徒も多くいます。卒業式の感慨に浸ってばかりはいられません。全員が本当に「卒業」できるのは、三月末になります。

可児高校で三年間、学習や部活動、学校行事などに真剣に取り組んできた事は、これからの人生で必ず生きて来ます。自信と誇り、そして優しさと思いをもち、人生を切り拓き、社会に貢献して行くことを期待しています。

世界に羽ばたけ、可児高三三期生！

# 可児高通信

平成27年  
1・2月号

## センター試験は可児高団体戦だ！

一月一七日（土）・一八日（日）

に名城大学都市情報学部でセンター試験が実施され、三年生 三〇一名が受験しました。センター試験は、可児高生活三年間の集大成であるともいえる大切な試験です。一月一四日（水）には、生徒会による激励会がありました。生徒会長からの激励の後、有志による「流言語によるセンター受験 注意事項」の寸劇やエールが送られました。また、三年生代表からはお礼と意気込みが語られました。



一月一六日（金）は、三年生の先生方からの激励会がありました。

寸劇を交えた先生方のメッセージ。緊張をほぐして試験に向かい、実力を出し切ってほしいという先生たちの気持ちが伝わってきました。

一七日（土）当日は、体育祭の各団の応援団長が、リードして恒例の「頑張るぞコール」が行われました。みんなの思いのこもった声が名城大学に響き、互いに力づけられました。まさにセンター試験は団体戦だという思いを新たにしました。試験は昨年難しかった国語が例年並みになり、初日の試験を終えた生徒たちは落ち着いた



表情で家路に向かい、二日目の試験に備えました。二日目は理系科目の試験です。数学Ⅱが難化しましたが、力の限りを尽くして問題に取り組みました。翌日からの自己採点、その結果を受けての担任との懇談による最終志望校決定、そして今は、二月二五日（水）の二次試験に向けて最後の追い込みに入っています。毎日登校して頑張っている姿を見ると、生徒たちの三年間の努力の成果が実り、無事、志望校に合格してくれることを願ってやみません。

## 若者に魅力ある地域づくり

十二月七日（日）に、可児市総合会館分館でかに

NPO 主催の「若者に魅力的な地域づくり」懇談会がありました。二十三人の可児高生が参加しました。第一部では徳島県神山で地域活性化を担う人材育成講座（神山塾）を運営している祁答院弘智さんと阪神淡路大震災の復興街づくり事業を展開している西村剛さんが講演をしてくださいました。お二人の情熱に惹きつけられました。自分の可能性を信じて挑戦していくことの素晴らしさと人との繋がり大切さを教えてくださいました。第二部は、ワールドカフェでグループの仲間とテーマに沿って意見交換をしました。生徒達は、とても有意義な時間を過ごしました。以下は生徒の感想です。「違う」ということの素晴らしさを肌で感じました。もっと色々な物のとらえ方や考え方を知りたいと思ったので、もっと多くの人と積極的に出会って繋がっていききたいと思いました。」高校生になって大人とこんなに話す機会は少なくて、いろんな意見を持った人と交流できて本当に貴重な体験になりました。」今日のように会話することが楽しく、もっと話したい、聞きたいと思ったのは初めての経験です。」

僕は都会に憧れていた部分があったのですが、今日の体験で都会にはないものがあるのだなというこ

とがわかりました。このまま一生可児に住んでもいいかなという思いが増えていきました。」

## スキー研修で可児高生になる！ 一年生

一月二七日（水）～三〇日（金）の三泊四日で、

高山市の国立乗鞍青少年交流の家でスキー・スノーボード研修が行われました。交流の家に着後、技術レベルで分けられたグループごとにインストラクターの指導のもと、研修が始まりました。グレンデはアイスバーン状態で滑りにくかったですが、生徒達は、一生懸命に雪山に挑み、スキーやスノーボードの腕を磨きました。三日間ともお天気に恵まれ、美しい北アルプスや白山連峰の山並を楽しみました。三日目の夜は、キャンドルサービスがありました。各クラスは出し物のスタンツの練習に前二日の夜を利用して取り組みました。当日は、第一部の迎火、第三部の送火の儀式が厳粛な雰囲気の中で行われ、暗闇を照らすキャンドルの明かりは幻想的で素晴らしいものでした。第二部のスタンツ大会では、どのクラスも、ダンス・寸劇などで盛り上げてくれました。生活面でも、学校生活と同じくはきはきとした挨拶、五分前集合の実践、と素晴らしく、他団体の模範となりました。この研修の目標であった、①友人



・先生との絆の深化②スキー・スノーボードの知識・技術の向上③最後まで頑張るぬく体力と精神力の養成）は、十分に達成できたと感じました。研修で、一回り大きく成長した一年生の今後が楽しみです。

# 可児高通信

平成26年  
12月号

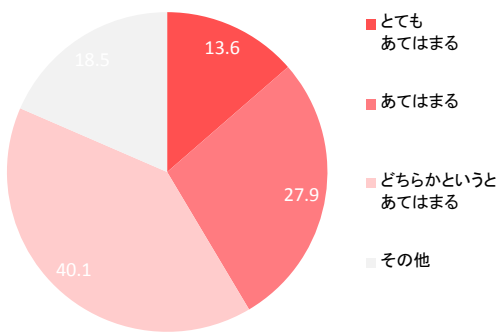
## 可児だいき人

## 可児の未来のために

一月一四日（金）、可児が大好きで可児で活躍の五人の方をお招きして、一年生を対象に可児の魅力やご自身の人生、仕事への思いなどを話していただきました。

市職員で法律の専門家である平川さんの話を聞いた生徒達は、「大生は選択と後悔の繰り返し」という言葉に、失敗も自分の成長につなげていければいい、思い切った選択をしたい、という前向きな気持ちを持ちました。可児かまど本店社長の近藤さんからの「不安なりし時は今を懸命に生きろ」という言葉に力をもらいました。不安

「自分も何か、地元のために貢献していこう！」  
という気持ちが芽生えた



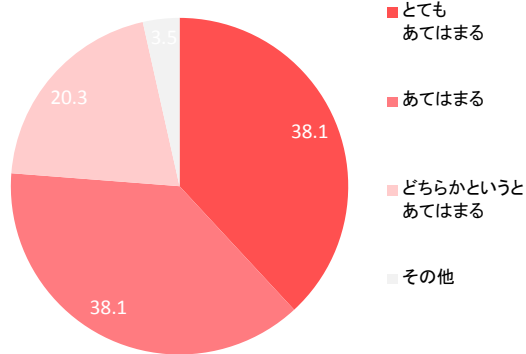
なのは一生懸命今を生きたくないという事、人より幸せになりたければ人より努力する事が大切だ、という事がわかりました。市職員で英語が堪能な齊藤さんからは、「Everything happens for reasons. 全てのことには訳がある」というお話を聞きました。

止まったり困ったりした時は、その「理由」を考えてポジティブに生きようと思いました。保育園長の大雅さんは「必然」が座右の銘であるそうです。出「会い」「失敗」など全ては必然で意味があることなので、恐れず大切にしていきたいと思いました。カーショップ経営の吉田さんからは、唯一人間だけが感

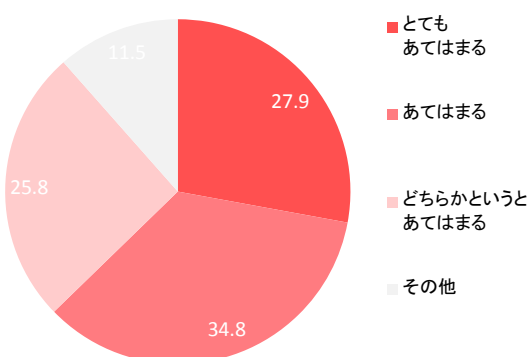
謝されることに喜びを感じる」という熱い言葉をいただき、自分の生きる意味や存在価値を見いだしました。

円グラフに示されているように、五人の方のお話は生徒の心に強く響き、これからの自分の生き方の参考になりました。今後も可児市の大人と話す機会をつくり生徒の成長を支援していければと思います。

「将来のために目の勉強も頑張ろう！」  
という気持ちが強くなった



講師の想いが伝わり、地元で生きる  
意味や価値を実感できた



## 可児高校を見に来てください！

一月五日（水）、午後、地域や保護者の方々に可児高校の授業の様子を見ていただけるように学校を開放しました。お忙しい中、六六人の方がおいでくださいました。授業の始まりや教室移動など、時間に対する意識が強いように思いました。挨拶をこやかにしてくれるのでこちらも気持ちよく挨拶できます。精神的に安定した生徒が多いと感じました。大きな声で熱意のある授業を進められている先生ばかりで感心しました。などのお声をいただきました。来年も同じ時期に行いますので、是非、可児高校にいらして、生徒や学校の様子をご覧になり、ご意見・ご感想をいただきたいと思えます。今後とも可児高校は地域の高校として頑張っていきますので、よろしくお願ひします。

## 可茂特別支援学校 「こりん祭」に参加



一月二二日（土）に本校生徒会執行部一六名が、「こりん祭」に参加しました。可茂特別支援学校と可児高校が交流を始めて今年で三年になります。割り箸ゴム鉄砲・牛乳パック竹とんぼ・バルーンアート・糸電話などのブースを設け、みんなで作って遊び充実した時間を過ごすことができました。今後とも交流を続けて行きたいと思っています。

## 高校生の飲料水について

一月二一日（金）には、中部学院大学短期大学部幼児教育学科の菊池啓子准教授から、高校生のよい飲料水の摂取について」というテーマでお話をさせていただきました。飲料水には糖類が多く含まれているものがあること、「カロリー0」と書かれていても糖分が全くないと言うわけではないこと、自分で考えて飲んだり食べたりする事が大切であることなどを話してくださいました。最後に生徒から「野菜ジュースを飲んだ方がよいのか」とか「炭酸飲料は骨が溶けるのか」「コーヒを飲むと眠くならないか」など多くの質問があり、生徒の飲み物に対する関心の大きさを感じました。先生からは「野菜ジュースには塩分や糖分が入っている物もあるため、標示の確認をし、自分が飲んでる飲料水に何が入っているかを知って飲むこと」「炭酸で骨は溶けない」「コーヒのカフェインに興奮作用があるので眠くなりにくい」などのお答えがありました。可児高の自販機はコーヒの販売量が多く、これは高校では珍しいとのことでしたが、眠気防止のために飲んでいたのでしょいか。今後、自販機で選ばれる飲料に興味があります。

# 可児高通信

平成26年  
11月号

## はつらつ講座の秋

前期末試験が終わり、一〇月から後期に入りまし  
た。一〇月は本校のキャリア教育の柱の一つである  
「はつらつ講座」が目白押しで計六回開かれました。

第二回の講座では、衛生状  
態がよくなったことが、逆に  
人間の免疫力を低下させてア  
レルギー症状が起きやすくな  
った事など、遺伝以外に生活  
環境やストレス、食生活の変  
化などが発症に影響している  
ことがわかりました。生活を  
豊かにしようとしてきたこと  
がアレルギーの原因になると  
いうのは皮肉なものであり残  
念な事です。

第三回は「分子分光学」と  
いうとても微細な世界の話で  
高校生にはかなり難かしい内  
容でした。講座では、高校時  
代に基礎的知見の修得、知見  
を活用する技能の修得、論理  
的理解力の育成を行うことが  
大切だと教えていただきました。

第四回は生徒にも身近なI  
T企業の話でした。Appleが  
高いデザイン性と既存の技術  
を取り入れて時代を変えたのに対し、Googleは他社  
のコンテンツを買収して基礎技術を手に入れて拡大

第2回	H26.10.2 (木)	食物アレルギーはなぜ起こる	岐阜女子大学	館 和彦
第3回	H26.10.7 (火)	光学顕微鏡で観るナノ物質中の電子の波動	早稲田大学 先進理工学部	井村 考平
第4回	H26.10.16 (木)	Apple,Google,Amazonのプラットフォーム戦略	名古屋学院大学	山口 翔
第5回	H26.10.17 (金)	畜産業と産業動物獣医師	中濃家畜保健衛生所	山崎 稔
第6回	H26.10.21 (火)	English is Fun!	中部学院大学	ワード・ケン・ヒガ
第7回	H26.10.31 (金)	京都の歴史・文化	京都光華女子大学	野田 泰三

したなど、その成長の過程が違うことがわかりまし  
た。また、それぞれがプラットフォーム（何かを販売  
して利益を得る場）で人を集めて利益を出している  
こと、Amazonも今後プラットフォーム化を進め、強  
力なライバルになること等がわかりました。

第五回では、畜産業は一日一二時間以上、三六五  
日の労働が必要なことがわかり、食肉としてスーパ  
ーに並ぶまでの畜産家の苦勞に、改めて命をいただ  
く事への感謝の気持ちを感じました。獣医というと  
ペットのお医者さんを思い浮かべることが多いです  
が、産業獣医師も家畜のために奮闘していることも  
わかりました。また、豚は甘いものが大好きで、ス  
イーツを持っていると飛んでくることなど面白いエ  
ピソードも聞きました。

第六回は、英会話でした。  
英語でコミュニケーションを  
とるゲームを楽しみました。  
ちよつと英語を身近に感じ、  
自信を持ちました。



第七回の講座では、華やか  
な平安京の裏の姿に驚くとと  
もに、絵巻物や古文書などか  
ら、真実を見つけ出していく  
歴史の面白さがわかりました。何と、平安京の町は  
糞便だらけで不衛生、疫病がはやり、それが非業の  
死をとげた人々の怨霊のせいだということで祇園祭  
が生まれたのだそうです。

はつらつ講座は、生徒の知的関心・向学心を目覚  
めさせ、進路探しの一助になっていると思います。

## 可児高校で進路実現を

## 中学生一日入学

一五日（水）、中学生の一日入学があり、三一〇名  
の中学生が参加してくれました。学校説明の後、グ  
ループに分かれて、可児高生の引率・説明で授業や

施設の見学を行いました。部活動の見学も行い、可  
児高校の生活の様子や雰囲気もわかってもらえたと  
思います。一人でも多くのやる気のある生徒と、進  
路実現に向けて頑張っていきたいと思っております。

## 長芋収穫に大喜び

## 勤労体験学習



二四日（金）に二年生が長芋の  
収穫をしました。グランドの東の  
狭い土地ですが、昨年三月に芋を  
植えつけました。一年生のクラス  
に戻って再会を喜びあい、みんな  
無心になってパイプの中を探しま  
した。今年の収穫量は、六〇・四  
kgと昨年に比べると少なかったで  
すが、生徒達からは歓声があがりました。掘った芋  
は生徒が家庭に持ち帰りました。

## 交通安全を考える秋

## 交通講話

日没が早まり、下校時の交通事故の心配が高まる  
季節になりました。一〇日（金）にはJAFの方に  
来てもらい交通安全に関するお話をいただきました。  
自動車の死角が想像以上に大きいことに驚き  
ました。この後、全校生徒が交通安全標語を考え、  
最優秀作品は、来年度の本校の交通安全標語として、  
正門付近の横断幕に掲示されることとなります。

## 表彰おめでとう

## 可児高MSリーダーズ

十月一日（土）に可児高校のMSリーダーズが  
可児警察署長と可児地区防犯協会長から、表彰され  
ました。MSリーダーズは、「Manners Spirit（マナ  
ーズ・スピリット）」リーダーズの略。県内の各高校  
にあります。今回は、本校の校内外の挨拶運動や通  
学路の美化運動が評価されました。今回の表彰を励  
みに、今後も継続して活動していきます。

# 可児高通信

平成26年  
10月号

## みんなでLet it Go!



九月二日(水)・四日(木)に第三五回の可児高校の文化発表会と体育大会が行われました。今年のテーマは『み(三)んなでLet it Go(五)』。第三五回にかけてネーミングでした。オープニングは書道部のパフォーマンスから。文化系の部活動や委員会、有志の発表、一昨年から友情参加



してくださる可茂特別支援学校さんのコーナーなどがありました。体験して一緒に楽しむことができる出し物が多く、三年生のある生徒は、「文化発表会が年々良くなってきている」と言っていました。昨年からのスタンプラリーが導入され、一定数以上の企画に参加すると抽選で景品が当たるということもあって、どの会場も盛況でした。最後は、生徒会企画の「可児高クイズ」。クラス対抗で行われ、可児高に関する一五問題に盛り上がりました。



四日は、体育大会。朝からどんよりとした雲に覆われ、途中で雨も降りましたが、若いエネルギー、熱気に満ちあふれたパフォーマンスには感動しました。体育大会には悪天候にも拘わらず七〇〇名以上の保護者や卒業



生が熱い声援をおくってくださいました。本当にありがとうございました。体育大会のハイライトは、軍団に分かれて全員が踊る軍団ダンスと応援合戦。どの軍団も統制の取れたダンスを短期間で完成させており、可児高生の集中心・団結力の素晴らしさを感じました。応援合戦も各団の伝統と個性が随所にあふれ、気迫のある一糸乱れぬその動きには圧倒されました。軍団ダンスは東軍が、応援合戦は北軍が勝利を収めました。どの軍も優劣がつけがたく全軍優勝といってもよいと感じました。総合優勝は北軍でした。生徒達のはつらつとした姿が印象的な一日でした。

また、体育大会や練習での騒音、当日の学校周辺の交通渋滞など、近隣の方々にご迷惑をおかけしましたことを紙面をもってお詫び申し上げます。

## 地域課題解決学習 夏の陣

地域課題解決学習の五つのプログラムが七月〜八月にかけて実施されました。七月二日(土)は医師会や市役所のご協力のもと、医療福祉IPE(多職種間連携研修)が開かれ医療福祉問題について意見を交わし考えを深めることができました。二四日(木)は、二年生が東京研修を利用して、文部科学省を訪れ「学ぶ目的」「学力低下」など教育問題について、専門家と議論しました。二九日(火)は、防災クロスロード体験が行われ、災害時の避難所設置の緊急対応について考えました。八月二日(土)には、可児川の水質や生物の調査である「カワゲラウオッチング」が行われ、スタッフとして参加し、地域の環境に



ついて考える事ができました。八月五日(火)の団地問題研究会では、地域の方々と一緒に地域の活性化について話し合いました。机上の学問のみでなく、現実の問題について大人と語り合うことで、可児高生は成長しています。



## 三年生 入試に向かって 真剣勝負

九月一日(木)に三年生の保護者進路説明会が文化創造センターで行われました。多くの保護者の方が参加してください大変感謝しております。進路説明会では、大学入試のしくみや今後の流れ、学年の様子や家庭での受験生への対応などについて、パワーポイントやスライド、担任団による寸劇によって説明がありました。一時間四〇分があつたという間に過ぎた充実した説明会でした。

これから三年生は、受験モードに入り、辛く不安な時期になります。しかし、受験という大きな山を越えると、そこには素晴らしい景色と一段と逞しくなった生徒諸君の姿があるはずです。

# 可児高通信

平成26年  
8月号

## 充実のキャリア教育

六月一八日(水)から進路について考える「はつらつ講座」が始まりました。初回は、教育実習生から大学生活や高校生活についてのアドバイスなどがあり、生徒たちは真剣に聴き、質問をして理解を深めました。



七月二二日(土)には、第二回の地域医療のIPE(多職種間連携研修)が広見の市総合会館で行われました。今回は可児市医師会のご協力のもと生徒二三人がグループに分かれて、医療関係者や市議会議員、市職員などと、高齢社会の医療・福祉問題について意見交換を行い意識を高めました。

また、保護者懇談中の一七日(木)には三年生を対象に河合塾の先生による「論文講座」が行われました。小論文の書き方や採点の仕方などについて講義がありました。

一六日(水)～二二日(木)には生徒と保護者を対象に「はつらつ大学講座」が開かれました。中部地方の国立大学を中心に私立大学も含めて九大学から説明に来ていただきました。中部地方の国立大学を中心に私立大学も含めて九大学も遠いため、オープンキャンパスに容易に行けない大学の魅力がよくわかり進路を考える上でとても参考になりました。

## 中濃総体で新チーム始動!

七月には、中濃地区の高校の部活動の試合、中濃地区高等学校総合体育大会が行われました。可児高校は、三年生が引退し、一・二年生の新チームでの初めての公式戦です。三年生中心のチームの出場も多い中、日頃の練習の成果を発揮して頑張り、三位内に入賞するチームも多くありました。これからの成長が楽しみです。

ハンドボール	男子	優勝
バスケットボール	男子	二位
硬式テニス	男子	団体三位
	女子	団体三位
バレーボール	男子	三位
バドミントン	男子	団体 三位
	女子	団体 三位
弓道	男子	団体 三位

## オープンキャンパス 中学生の高校体験

七月二二日(木)～二五日(金)の四日間、中学生の体験入学があり、中学生四八一名、保護者一三八名の参加がありました。可児高校を紹介するスライドを使っての学校説明、模擬授業、可児高生の話などがあり、「参考になった」とアンケートでお答えになった方は、中学生・保護者ともほぼ一〇〇%でした。特に模擬授業や可児高生との懇談が好評だったようです。

生徒の挨拶・笑顔が多い」「学校がきれい」「設備・雰囲気がい」「勉強ばかりのイメージだったのがのびのびと部活をやっている姿が印象的」などの感想をいただきました。可児高校は、自分の目標に向かって自ら頑張る生徒、規律正しく思いやりのある生徒の育成をめざしています。一〇月にも一日体験入学がありますので、希望される中学三年生の方は是非、可児高校を体験してください。



## 楽しかった! 東京・富士研修

七月二二日(木)～二五日(金)まで、二年生が東京・富士の研修旅行に行きました。初日は、富士山麓の青木ヶ原樹海のネイチャーガイドツアー。富士山の噴火によってどのように樹海ができたのか、どのような生態系ができあがっているのか等を学びました。夜は、東京のホテルで、キャリア教育の一環として四名の方の講演を聴きました。



深き講演で、時の経つのを忘れられました。三名は可児高校の卒業生で、先輩の素晴らしい活躍は可児高生の励みにもなりました。翌日は、浅草で日本情緒溢れる下町を散策しました。仲見世には様々な店が並び興味深かったです。その後、東京大学を先輩の案内で見学。お昼は東大生と一緒に学内の食堂で。将来ここで学びたいと感じた生徒は是非夢を実現して欲しいものです。その後、上野で国立科学博物館見学。忠犬ハチ公の剥製や江戸時代のミイラなどに目を見張りました。夜は、スタンプ大会。各クラスとも個性的な出し物で盛り上がる事ができました。三日目は、グループごとに企業別研修をしました。普段は見る事ができない企業の内部まで見せていただけた所もあり、大変充実した研修になりました。四日目は、富士急ハイランドで思いっきり楽しみました。キャリア学習、クラスの活動、観光等、バラエティに富んだ研修で、お天気にも恵まれ生徒たちは大満足でした。

# 可児高通信

平成26年  
7月号

## 地域の課題に挑戦!

## IPE研修会

五月二二日(木)放課後、地域医療IPEが可児高校で行われました。IPEとは、Interprofessional Education の略で日本語では多職種間連携研修といえます。一つの問題に対して、様々な職種の人々がそれぞれの視点から問題を捉えて話し合い解決策を見いだしていくものです。今年二月の可児市議会会場における高校生議会で「高校生からの意見書」を提出し、その中で、高校生が大人と一緒に地域課題に取り組む場所をつくって欲しいと訴えました。市役所の方々のご尽力により、その思いが結実したのが、



今回のIPEです。今回は、

医療現場での具体的な課題を、看護師、作業療法士、ケアマネージャー、介護士、行政関係者などが解決策を話し合いました。当日は、医療系志望二三名の可児高生が参加し、積極的に意見を述べました。高校生の視点からの斬新な意見に、他の参加者が驚か

れる場面もありました。今後は、医療だけでなく、少子高齢問題や財政問題、環境や団地問題などのIPEを市にお願いして立ち上げ、他校の高校生にも呼びかけていきたいと考えています。自分の進路目標と結びついた地域課題を学んで進路意識を高め、主体的に学習に取り組んで夢を実現し、さらには、地元のために活躍してくれる若者が増えてくれることを期待しています。

## 1年生 交通安全教室

六月一〇日(水)、前期中間試験が終わった午後、可児自動車学校で交通安全教室が開かれました。自転車を使って通学している生徒が九八%いる本校では、交通規則やマナーを守って安全に、迷惑をかけないで登下校するように指導しています。



び出し事故体験や右直事故体験をしました。

教官の迫真の演技に泣き出してしまふ生徒もいました。安全教室をきっかけに、よりよい自転車の運転を心掛けてくれることを願っています。



## 保護者も大学見学へ

六月一〇日(水)、PTA主催の大学見学会が実施され、四八名の保護者が参加されました。今年、岐阜大学と聖徳学園大学へ行きました。岐阜大学では、大学についての説明の後、研究室などを見せていただきました。知能機械コースの研究室では、人間の手の動きをセンサーでキャッチして、同じように動く義手などを見学し、科学技術の凄さを目の当たりにしました。午後は、岐阜大学の学食で昼食をとった後、聖徳学園大学へ行きお話を伺いました。岐阜聖徳学園大学というと教育学部を思い浮かべますが、外国語学部にも力を入れておられ、グローバ

ル社会に対応した人材育成をしていらっしゃるのです。実際に大学をみることで、学校や学生の雰囲気を知ることができ有意義な一日でした。昨年は京都大学・立命館大学を訪問しました。来年は、愛知県内の大学を予定しています。

## スマホに潜む危険

## ネットは玄関の外側

五月三〇日(金)に、一年生を対象に「情報モラル教室」を開きました。グリー株式会社の小木曾健氏が「正しく怖がるインターネット」と題してお話してくださいました。生徒のほとんどがスマートフォンを手軽に使用していますが、その危険性について意外に知っていないことを生徒自身が驚きをもって認識する事ができました。ネットは玄関の外側」というのは、ネットに書いたことは玄関に貼ったのと同じ事で、情報はすぐに伝わってしまうということを具体的な例を挙げてお話してくださいました。写真や僅かな情報で、本人の住所等がわかってしまうことなど衝撃的なお話でした。普段から聞いている情報モラルの話とは違って、身近な所から具体的に迫力をもってお話いただき、生徒達も真剣な眼差しで聞き入っていました。インターネットの使い方について「現実でできないこと」など、改めて自分のネットの使い方考え直す事ができました。



## はつらつ講座

## スタート

六月一八日(水)に第一回ははつらつ講座が行われました。教育実習生六人が可児校生活・大学生活などについて語り、生徒一九八名が参加しました。はつらつ講座は、キャリア教育として大学教授などを招いて年間一〇回ほど開催されます。

# 可児高通信

平成26年  
6月号

## 青春はつらつ 球技大会



雨で一日順延となった五月一日(水)、球技大会が行われました。クラス対抗でソフトボール・サッカー・卓球・バレーボール・バスケットボールの五種目が行われました。開会式では校長先生から三つの目標(クラスの親睦・はつらつとしたプレー・安全)についてお話がありました。試合が始まると、クラスメートは熱い声援をおくり、選手は、チーム内で声をかけて励まし合い、試合後は、健闘を讃え合って握手を交わす、実に爽やかで感動的な光景がグラウンドや体育館のあちこちで見受けられました。大きい怪我などもなく、校長先生の三つの目標は十分に達成できた素晴らしい球技大会でした。また、サッカー・ソフトボールの優勝チームと教員チームとのドリームマッチも行われ、授業とは違う先生の姿に声援がおくられました。総合優勝は二年生でしたが、各種目の優勝は三年生が多数を占め存在感を示してくれました。生き生きとした生徒の瞳から、正々堂々と力いっぱい取り組んだ充実感が感じられました。

## 第二九回 可児高校吹奏学部 定期演奏会



五月四日(日)、吹奏学部定期演奏会が、可児市文化センター「宇宙のホール」で行われました。生徒たちが意見を出し合って、個性と工夫が詰まった演奏会となりました。吹奏学部は、二年連続で吹奏楽コンクール東海大会に出場しており、定期演奏会でその実力を披露してくれました。第一部は、クラシックステージでじっくりと、第二部は、「Welcome to KHB theater」と題して映画音楽を中心に軽快に、第三部はCMソングやドラマの主題歌などバラエティに富んだ選曲で楽しく、演奏が行われました。どのステージも、音楽だけでなく、パフォーマンスで観客を惹きつけてくれました。三年生は、このステージで引退となり、後輩から感謝を込めた花束が贈られました。中には感激の涙を流す生徒もおり、二年間の部活動が素晴らしいものであった事が伺われました。毎年、この時期に行われますので、来年度は是非お越しください。(大場無料)

## それぞれの五月 二六日 金曜日 七限



五月一六日(金)七限目は、一〜三年生が独自の活動を行いました。一年生は、「花いっぱい、ピカピカ大作戦」。花壇での夏花の種まきや普段使用している学校周辺や教室の清掃などを感謝の心をこめて行いました。二年生は、分野別キャリアガイダンス。

## 三年生有終の美飾る 高校総体・総文



ス。大学など一四の学部の先生にお越しいただき、自分の関心のある分野のお話を一時間かけてじっくりと聞きました。生徒たちは、真剣な眼差しでお話に集中していました。三年生は、進学講演会。今年の大入試の状況と今後の対策」というテーマで河合塾の中村先生に講演していただきました。入試問題の分析や合格するためでした。先生のおっしゃった事を誠実に実行して、志望校合格を手にしてくれる事を切望しています。全校生徒が、それぞれに意義深く過ごすことができました。一六日七限目でした。



四月末〜五月には、部でインターハイの予選が行われ、可児高生も日頃の活動の成果を遺憾なく発揮しました。テニス・卓球・弓道・剣道・バドミントン・ハンドボール・バスケットボール・バレーボール・ホッケー・アーチェリー・ウェイトリフティング・陸上部が県大会に駒を進めました。テニス部男子団体が県大会三位となったほか、ウェイトリフティング部は県大会で六名が三位入賞を果たし、そのうち三名が東海大会出場を決めました。女子は、今後全国大会出場をめざして頑張ります。また、囲碁将棋部が全国高校将棋選手権大会県大会で優勝し、七月に水戸市で行われる全国大会に出場が決まりました。三年生はこれで引退し、本格的な受験勉強に入ります。部活動で培った体力・忍耐力・集中力などが大きな力となるでしょう。



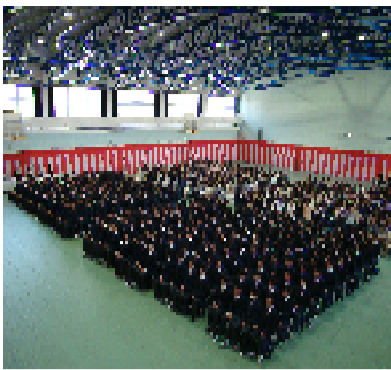
# 可児高通信

平成26年  
5月号

## 入学おめでとう

四月八日、多くのご来賓の方々のご臨席のもと、第三五回入学式を挙りました。満開の桜の花が新入生を優しく迎えてくれました。新入生三〇一名、一人一人の名前が呼ばれると、力強い返事が響き、高校生活に対する決意の強さが感じられました。将来の夢を叶えるため、学校全体が一丸となって努力していきます。

翌、四月九日には二・三年の生徒との対面式を行いました。代表の挨拶の後、全員で初めての校歌を歌い、可児高生としての一步を踏み出しました。



301名の新入生



入学生宣誓 (右)



在校生代表歓迎の挨拶



対面式

新入生代表挨拶

## おいしい長芋、たくましく育てね 勤労体験学習



三月二四日(月)に新2年生が、長芋の種芋の植え付けと椎茸の菌うちを行いました。長芋は畝を作り、土を入れたパイプに種芋を入れて埋め、最後に案内棒をたてました。椎茸は原木にドリルで穴を開け、菌を打ち込みました。初めての作業に、生徒たちは目を輝かせながら、クラスで協力して取り組みました。今後は、勤労体験委員が中心になって毎日水やりなどの管理を行い、一〇月に一年次のクラスに戻って収穫が行われる予定です。おいしい長芋、椎茸がたくさんできることを楽しみにしています。

## ダニエル・カールさん講演 PTA総会

四月一九日(土)にPTA総会が開催され、約六五%の保護者の方が出席されました。総会では、タレントで山形弁研究家のダニエル・カール氏が「がんばっぺ、オラの大好きな日本」をテーマに講演を行いました。



「族の絆」というテーマで講演してくださいました。日本人は「自慢」よりも「謙遜」を重視するが、世界に誇れるものがたくさんあるので、もっと自慢をして誇りを持つことで、元気になることができるとお話しくださいました。また、午前には生徒向けに「国際化を生きる若者のあり方」と題して、外国人にとって日本語の難解な点を説明され、国によって言葉・習慣・考え方が違うこと、それを理解することが国際社会を生きる上で大切である

と題して、外国人にとって日本語の難解な点を説明され、国によって言葉・習慣・考え方が違うこと、それを理解することが国際社会を生きる上で大切である

ると教えていただきました。山形弁混じりの日本語でユーモア一杯のお話はわかりやすく、私たちが惹きつけ、時の経つのを忘れさせました。日本や国際化について改めて考える事ができました。

## KYBスタジアムオープニング ファンファーレ



四月五日(土)、可児市坂戸に建設された可児市運動公園スタジアム(愛称KYBスタジアム)のオープニング式典が行われ、富田市長以下約二五〇名の見守る中、本校吹奏学部が演奏を行いました。当日は、桜冷えの感はありましたが好天に恵まれ、人工芝のグリーンが青空に映えて、生徒たちの奏でははつらつとした音色がスタジアムに響きました。

吹奏学部は、二七日(日)の可児市総合体育大会総合開会式でも演奏を行い、式を盛り上げました。

## 校外で学び、親睦を図る

四月二五日(金)、校外研修が実施されました。一年生は、花フェスタ記念公園で、オリエンタリングや大縄跳びを行い、青空の下クラスの親睦を深めました。二年生は京都大学で卒業生から大学生活などの話を聞き、大学に対する意識を高めることができました。その後、清水寺に行き、歴史に触れることができました。三年生は、自分の進路希望に応じて、南山大学・名古屋工業大学・名古屋市立大学・愛知県立大学・岐阜大学の施設見学や説明を聞き、大学での学習についての理解を深めました。その後は、アクアトや東山動物園で、動物や魚を見て心身を癒しました。各学年とも、充実した実りの多い研修になりました。